

## 第 80 回 高エネルギー加速器研究機構 経営協議会議事要録

日 時 令和 6 年 6 月 11 日 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所 KKR ホテル東京 + web 会議

出席者 岡村委員、國井委員、小松委員、佐藤委員、永田委員、東島委員、  
松村委員、村山(宣)委員、森委員、浅井委員、足立委員、長野委員、花垣委員、  
道園委員、元村委員、齊藤委員、船守委員、小関委員、波戸委員、小林委員  
(欠席:小口委員、長谷川委員、村山(齊)委員)

陪席者 住吉監事、辻監事、五味田総務部長、山崎財務部長、永木研究協力部長、  
永野施設部長、櫻井参事役・総務課長、柴原参事役・東海管理課長、坪監査室長、  
岩見人事担当課長、由井職員担当課長、飯塚財務企画課長、山口研究協力課長、  
島根共同利用支援課長、横田施設企画課長、山本整備管理課長 他

### 配付資料

1. 第8期 KEK 経営協議会委員名簿、経営協議会規程
  2. 第 78 回、79 回経営協議会議事要録
  3. 機構長選考・監察会議委員の選出について
  4. 役員の退職手当額に関する業績勘案率について
  5. 令和5年度自己点検結果について
  6. 令和5年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について
  7. 令和7年度概算要求について
  8. 素粒子原子核研究所報告
- 参考資料 2024 年度 KEK 要覧

### 議 事

#### 1. 第8期 KEK 経営協議会について

浅井議長から、資料1に基づき第8期委員の紹介および経営協議会の審議事項等について説明があった。

#### 2. 第 78 回、79 回議事要録について

浅井議長から、資料2の議事要録については事前に確認済みであり、確定版を配付している旨の説明があった。

### 3. 審議

#### (1) 機構長選考・監察会議委員の選出について

長野委員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

#### (2) 令和5年度自己点検結果について

足立委員から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

##### <主な質疑応答>

- ・知財相談の具体的な取り組み、知財相談に基づく成果を教えてください。
- KEK では知財で収入を得る目標は立てにくいのが現状であり、共同研究への発展を狙いつているので相談件数を評価基準にしている。KEK の知財は加速器の技術をベースにした基盤技術が多く、資金を得るよりも共同研究につながるものが多い。
- ・AIST では技術相談を技術コンサルティングとして有償化している。有償化した結果、相談の質も向上し、自己収入にもプラスの効果があるので検討してはいかがか。
- 目利きが出来る人員が限られているので NIMS、AIST などつくば地区の研究機関とも連携していきたい。
- ・コンプライアンス研修の受講率は 100%を目指してほしい。大学院生もコンプライアンス研修は受講したほうがよいのでは。
- ご指摘の通り、100%を目指す。大学院生については海外の招聘研究員の受講が難しいところもある。
- ・令和5年度のBファクトリーのルミノシティの目標は当初からその目標であったのか。
- そうである。
- ・認知度に関して、加速器は非常に多くのところで使われているので社会の基盤を支えていることをアピールしてほしい。加速器の特許は知財収入にはなりづらいのが正直なところだが、上手く工夫してアウトリーチすることで知財収入、学生へのPRにつながることも期待したい。
- ・宇宙、核融合、超伝導、量子などは比較的分かり易く、一般の方も関心が高い。加速器科学は多くの科学をバックボーンとして支えていることを広報してほしい。専門家だけの関心で終わらないように一般社会にも広くPRできる広報を行い若い人を集めることもお願いしたい。
- ・視覚障害者向けに KEK が資料を作ったと聞いているが詳細は。
- 筑波技術大学と素粒子原子核研究所のコラボレーションで素粒子に関する書籍を点字化したもの。触図も作成しているところで、図書館などへ配布予定。今後の展開としてオーディオブックでも発売予定であり、多くの方々に手に取って頂きたい。
- ・アライアンスで教育や人材育成に資する事業を提案してはどうか。
- 人材育成、国際化推進についてはアライアンスとして非常に多くの学問領域をカバーしているので KEK としても活動をより活発化していきたい。
- ・評価ではアウトプット、アウトカムの指標になるので社会への貢献度を意識して自己評価することが必要。また、KEK のベンチマーク相手となりうる機関との比較も効果的ではないか。
- ベンチマーク機関としては、アメリカの Fermilab、スイスの CERN があるが協力関係でもあり、我が方と比べて予算規模が各段に大きいので比較が難しい。

・技術のスピニングアウト数はカウントしていないのか。次回の中期計画にはスピニングアウトを入れて欲しい。

→今回の評価指標には入っていないが、いくつか事例はある。一番の課題は人材なので研究施設の多いつくば地区で協力を進めていきたい。

・CERNのように技術スピニングアウトを推進する仕組み・組織は無いのか。

→リソースの問題もありなかなか難しい。

### (3) 役員の退職手当額に関する業績勘案率について

浅井議長から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

### (4) 令和5年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

長野委員から、資料6に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

#### <主な質疑応答>

・今年から改訂となった受託研究費を財源に取得した固定資産の耐用年数の取扱いについて、研究期間終了後の費目は変わる必要があるのではないか。また、令和4年度の当期総利益134億円はどのように処置したのか。臨時損失が発生する蓋然性がある場合は直ぐに計上できるシステムとなっているか。

→研究期間終了後も費目は変わらない。そのことは大学共同利用機関法人の制度上問題は無い。令和4年度の総利益については、会計基準の変更に伴って計上された当期総利益なので現金の裏付けがない見かけ上の利益である。臨時損失は資産の除却損によるものであり、月次で認識している。最終的に臨時損失となるのは決算時である。

・総予算に占める人件費の割合はいかがか。全体の公金、外部資金等に占める人件費の割合及び安定的な経営の見通しについて教えて欲しい。

→人件費約70億円、総予算は300億円を割るくらい。人事院勧告を反映させると人件費があがることになるので、持続的な人件費の確保が課題。次の課題は電気代であり、昨今の情勢で電気代が非常に高額になっている状況。人件費については財源の多様化により確保し、電気代については政府の支援を引き続き依頼する。

・大型の外部資金から人件費を措置することは考えられていないか。

→他の国立研究開発法人と比べると運営費交付金との比率を踏まえるとKEKはまだ外部資金の割合が少ない。財源多様化により、外部資金を増やしていくことが今後の検討課題。

・円安の影響は。為替のリスクヘッジはしているのか。

→海外に派遣する研究者の旅費、海外への機器の納入などに大きな負担がある。為替に関するリスクヘッジはしていない。一番の問題は給与水準であり、海外と比較すると研究者の給与水準が低いことに加え、円安が重なっているため海外の研究者を呼び込むことがかなり困難になっている。今期については補正予算で措置頂けないか相談しているところ。人件費に充てるための自己収入の増加も方策として考えている。

### (5) 令和7年度概算要求について

長野委員及び道園委員から、資料7に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答>

- ・決算書と概算要求の関係性を教えて欲しい。
- 繰越が発生しているものがあるので、必ず一致するものではない。人件費など算定ルールに基づくものがあるので直接比較することは難しい。
- ・予算と決算が分かる整理にできないか。予算と決算の関係性を整理して示した方が良い。
- 今後は整理してお示しする。
- ・予算の全体像を教えて欲しい。
- 運営費交付金約 190 億円、先端研究推進費補助金約 70 億円、その他施設整備費補助金および科研費などがあり、合計で約 300 億円となる。
- ・4 つの重要なプロジェクトが要求額と予算額が大きくかけ離れているが、これで良いのか。
- 必要額を政府に対してしっかりと提示することおよび補正予算額に向けた要求を一部含めている。

#### 4. 研究活動報告

##### (1)素粒子原子核研究所報告

齊藤委員から、資料8に基づき報告が行われた。

#### 5. 自由討論

- ・KEK の経営協議会委員はサイエンスに偏っているような印象を持った。民間企業の方をもっと多く入れられるような下地を作っていく必要があるのではないか。3 年後の委員の構成を検討する際には考慮して頂きたい。

以上